

平成28年度

宇治市小中一貫教育についてのアンケート

報告書概要版



宇治市教育の日シンボルキャラクター：ハチャ君

平成28年10月

宇治市教育委員会

I 実施概要

1 目的

小中一貫教育をはじめとした本市学校教育の推進及び今後の教育施策の参考に資するため、学校教育に関する児童・生徒、保護者の意識や意向、学校の状況などについて把握するとともに、これまでの調査の結果をもとに経年比較を行う。

2 対象

- (1) 宇治市立全小学校 第5～6学年の各学年1クラスの児童と保護者
- (2) 宇治市立全中学校 第1～3学年の各学年1クラスの生徒と保護者
- (3) 宇治市立全小・中学校（小学校22校、中学校10校）

回答数	児童・生徒	計	2,180 名
	保護者	計	1,857 名
	学校	計	32 校

3 実施時期

平成28年6月22日（水） ～ 7月8日（金）

4 設問項目

- (1) 小中一貫教育のねらい・取組について [7項目]
(児童・生徒、保護者、学校)
- (2) 小中一貫教育への意識について [3項目]
(児童・生徒、保護者、学校)
- (3) 中学校入学に係る心配や不安・悩みについて [8項目]
(小学校6年児童、中学校1年生徒)

Ⅱ 結果

1 ねらい・取組、意識について

設問「授業はそれまでに習ったことや中学校で(これから)習うことにふれて進められていると思う。」に対して、児童・生徒が「そう思う」、「だいたいそう思う」と回答(以下、「肯定的回答」という)した割合は約80%と、多くの児童・生徒が小・中学校9年間を見通した「系統的・継続的学習指導」を実感していることがうかがえます。

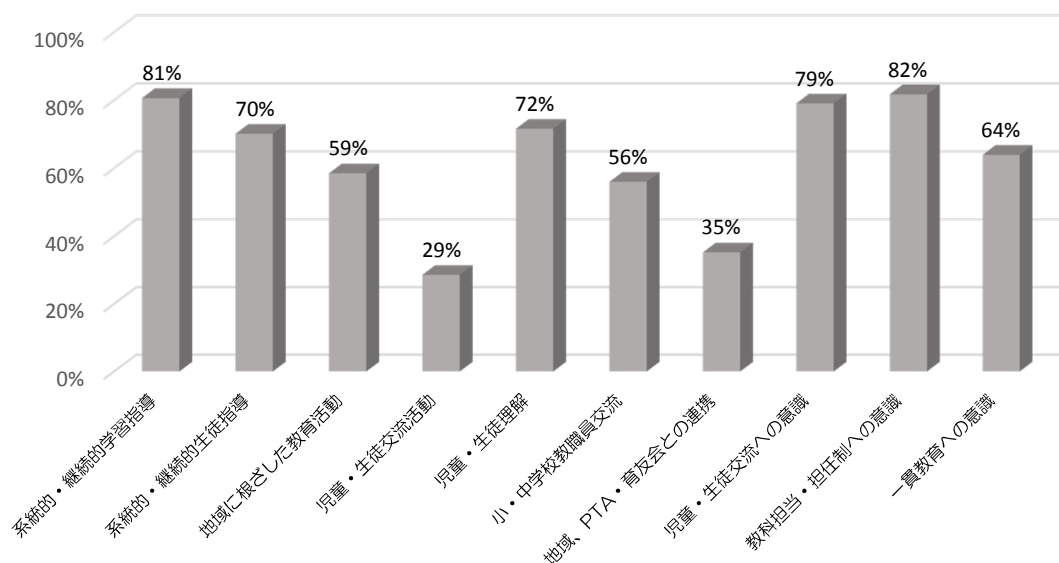
同じく「児童・生徒交流」「教科担任制」においても、児童・生徒、保護者の「肯定的回答」の割合は約80～90%と高いものです。

とりわけ接続学年の小学校6年生、中学校1年生での「ねらい・取組」「意識」の設問に対する肯定的回答が年々増加し、特に、中学1年生での増加傾向が顕著なことから一貫教育の取組が着実に成果を上げていると考えられます。

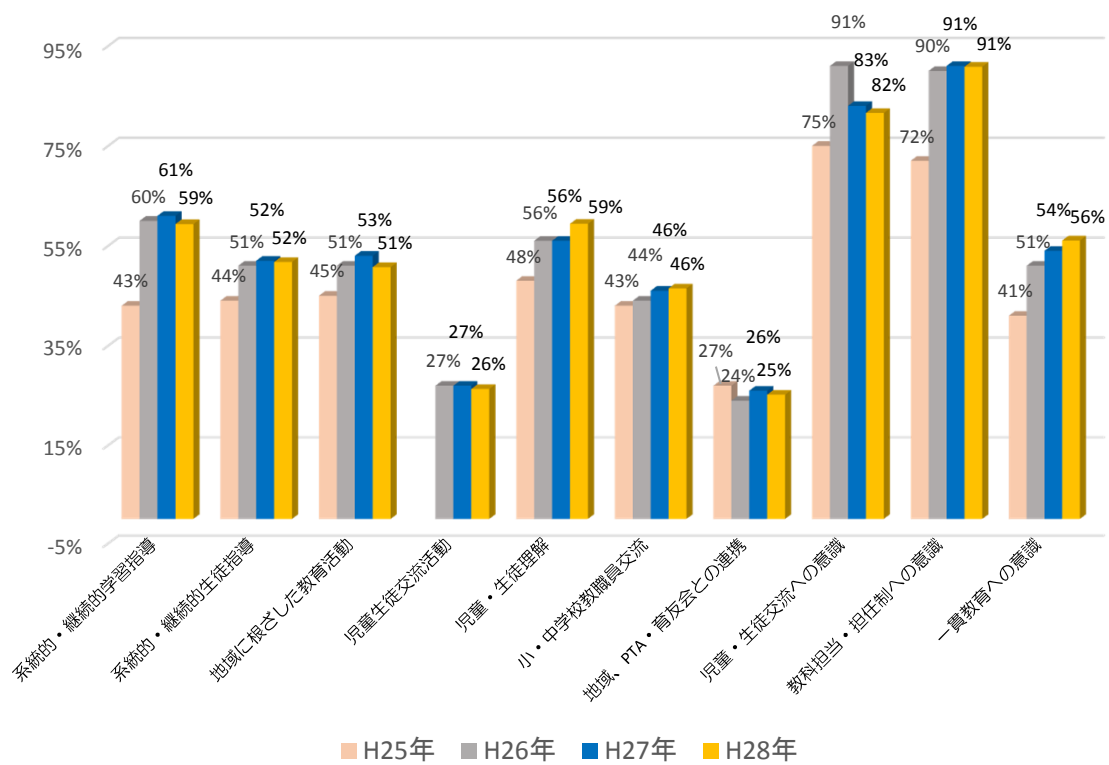
保護者の「ねらい・取組」「意識」の各設問に対する肯定的回答の割合は児童・生徒のものとは比べ低いものの、概ね同様の回答傾向を示しています。

しかしながら、「系統的・継続的学習指導」と「系統的・継続的生徒指導」の両設問の回答傾向が、他の設問と比較するとより低くなっています。こうしたことから、保護者の小中一貫教育への理解をさらに深めていただくために、この2点に関する取組の情報発信を充実させる必要があります。

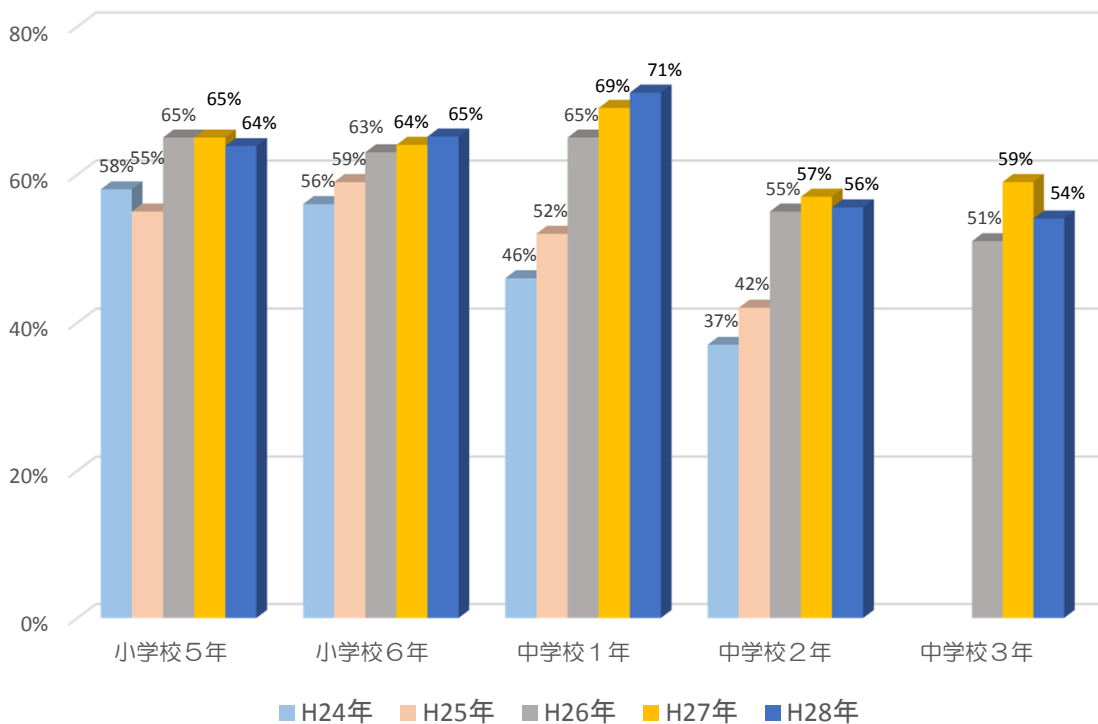
児童・生徒 「ねらい・取組」「意識」についての肯定的回答割合



保護者 「ねらい・取組」「意識」についての肯定的回答割合の経年比較



児童・生徒「ねらい・取組」「意識」についての
肯定的回答割合の学年別経年比較



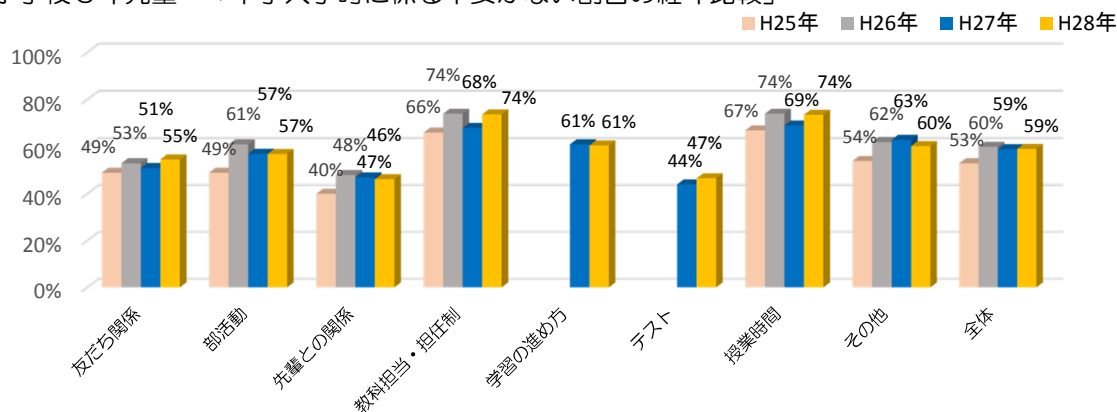
2 中学校入学に係る心配や不安・悩みについて

小学校6年生児童では、「中学校入学に係る不安や悩み」に対する回答で、「そう思わない」「あまり思わない」とした割合が50%に満たないものは、「中学校での先輩との関係」と「定期テスト」でした。昨年度から追加した設問「定期テスト」は、昨年と同様の結果となっています。

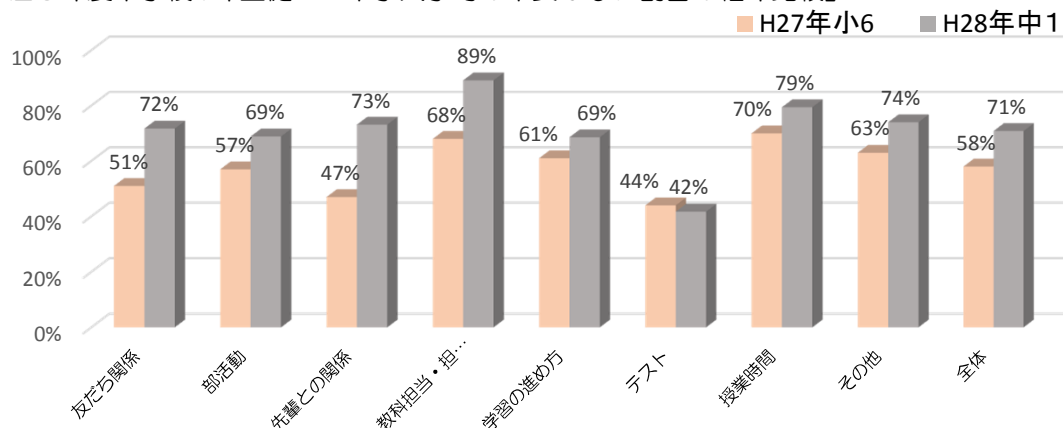
一方、中学校1年生の回答では、この「先輩との関係」も含めて「そう思わない」「あまり思わない」と回答した割合が、約70～90%となっており、小中一貫教育の成果がうかがえます。

しかし、「定期テスト」についての悩みや不安は約40%となっており、小学生と同様、不安を感じる生徒が多いことがうかがえます。この設問は前述の通り、昨年度から追加したものであり、その結果を踏まえ各小・中学校では、この課題についての検討、取組を始めたところです。今後も、児童生徒の不安解消に向け有効な取組を進めていく必要があります。

小学校6年児童 「中学入学時に係る不安がない割合の経年比較」



H28年度中学校1年生 「中学入学時の不安がない割合の経年比較」



※不安や悩みがない割合

3 施設や分散進学状況における比較について

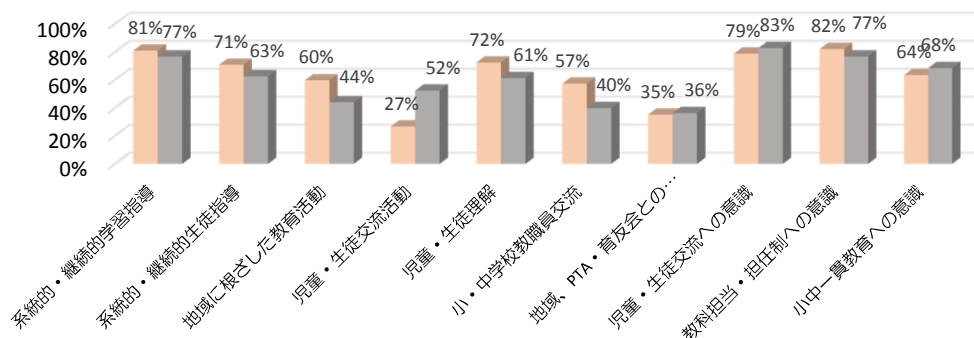
(1) 施設について

設問「児童・生徒交流活動」に対して、施設一体型小中一貫校（以下、一体型という）の児童・生徒の「肯定的回答」の割合は52%ですが、施設分離型小中一貫教育校（以下、分離型という）の児童・生徒では27%と顕著な差が見られます。保護者に対する同じ設問でも、一体型の「肯定的回答」の割合は71%ですが、分離型では23%にとどまっています。

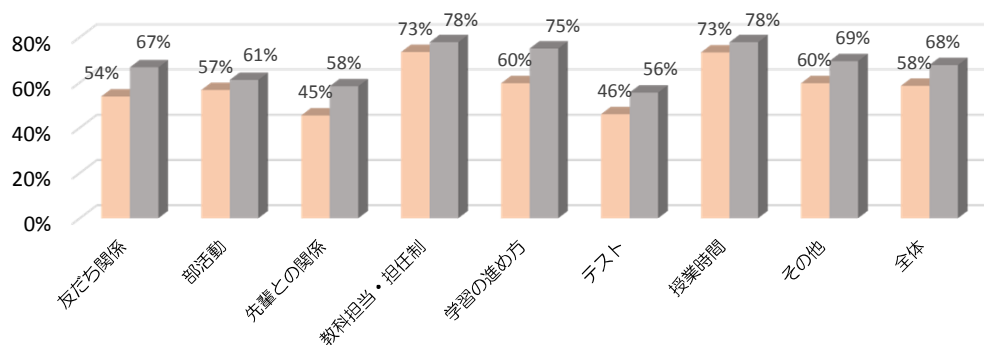
設問「中学校入学に係る不安や悩み」では、小学校6年生においては、すべての項目で、一体型の児童が「不安や悩みがない」と回答した割合が分離型を上回っています。中学校1年生ではその差がほぼなくなりますが、「部活動」「先輩との関係」においては差が見られます。

施設一体型の学校は、宇治黄檗学園（宇治小学校、黄檗中学校）だけであり、抽出した回答数は他の場合に比べ少なくなります。そのため、その年度によって大きく値が変化すること考えられるなど統計的には課題があります。また、今年度の小学校6年生は小学校2年生時から来年度の6年生は入学時から、施設一体型の宇治黄檗学園で過ごすことになります。こうした児童・生徒にとっては、小・中学校教員の連携・協力のもとで、小・中学校の児童・生徒が同じ学舎で学ぶことが当たり前となります。したがって、今後、これまでの設問での比較・検証では意味を持ちにくく

児童・生徒 「ねらい・取組」「意識」の肯定的回答割合 ■ 施設分離 ■ 施設一体



児童 「中学校入学に係る不安がない割合の比較」 ■ 施設分離 ■ 施設一体



(2) 分散進学について

「ねらい・取組」「意識」に関する設問では、小学校児童、その保護者ともすべての設問において「分散進学」がない学校の方が「肯定的回答」が多くなっています。中学校では生徒、保護者ともその差が少なくなったり、逆転したりする設問が見られますが、「児童・生徒交流活動」「地域、PTA・育友会との連携」の設問では、分散進学がない学校での「肯定的回答」が高くなっています。

また、「中学校入学に係る不安や悩み」についての小学校6年生の回答では、「分散進学」がある学校とない学校では大きな差は見られませんでした。

児童 「ねらい・取組」「意識」についての
肯定的回答割合の比較

■ 分散あり ■ 分散なし

